

【別紙様式Ⅰ】 令和6年度 学校評価報告書

学校名 厚木市立森の里中 学校

厚木市教育委員会の基本目標

- 1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】
- 2 自他の命や豊かな感性を大切に、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】
- 3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】

校長名 松田 拓也

学校教育目標

学校経営の方針

魅力ある学校を、生徒と教職員、保護者、地域の方と一緒に創る。
「学び 鍛え 翔く」
・確かな学力を身につけさせるとともに豊かな心を育てる
・自主・自立の精神を育成するとともによりよい人間関係を築く
・将来への夢を持ち、自己理解の上に立ち、自己実現を促す

『人は 人によって 人になる ～ 心響かせ 心耕す学校 ～』

- 1 社会的自立(キャリア教育の推進)
・体験活動の推進と経験を生かす指導による価値観の変容・醸成
- 2 確かな学力(学習活動の充実)
☆学習意欲の向上
・知識技能の習得
・活用能力の育成
・学習習慣の確立
・ESD教育の推進
・ICT教育の推進
- 3 道徳教育の充実(心をつなぐあいさつ)
☆人間関係を築く力
☆社会参画への意欲
☆共生社会
☆体験活動を生かす
- 4 家庭連携の構築
☆基本的な生活習慣の確立
☆社会性の育成
- 5 小中連携
☆教職員の交流による連携強化
☆学びの連続性、指導の系統性の確立

今年度の重点目標

重点目標

『自律・貢献・創造』

- ①一人ひとりを大切にする教育活動を展開する。
- ②授業・学校行事・部活動など、生徒が生き生きと活動する。
- ③魅力ある学校を生徒と教職員、保護者、地域の方と一緒に創る。

重点教育活動

- 1 学習活動の充実
- 2 キャリア教育の充実
- 3 道徳教育の充実
- 4 心をつなぐあいさつ
- 5 一人ひとりを大切にする教育の実践(インクルーシブ教育の充実)
- 6 小中連携の推進

「コミュニティ・スクール」小中共通教育目標

『心豊かでたくましい子供の育成』

- ・学校と地域の情報共有・相互理解
- ・子どもたちの豊かな育成

評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
《学習活動の充実》	1・2	T・T、少人数授業 定期テスト対策：補習授業 創作活動： ①美術・音楽分野 ②地域文化作品展示（CS事業連携） ③生け花教室の開催（CS事業連携） 朝読書活動 朝タイピング活動	・習熟度別やT・T等細かな配慮のもとに学習効果を高め、基礎・基本の定着を図った。 ・基礎的・基本的な知識の定着をねらいに個に応じた指導（T・T、少人数授業）を実践し、学びの浸透・学習意欲の向上に効果をあげた。 ⇒2年・3年の英語でT・T指導を実施。 ⇒2年・3年の数学で少人数指導を実施。 ⇒学力ステップアップ支援員を1年英語・数学で活用。 ・毎週月曜日の部活動休養日に学習相談を実施するとともに、定期テスト前に学習会を実施した。 ・①美術・音楽において、単に技術・技能の習得にとどまらず、主体的に取り組み対話的な活動を通し、思考力・判断力・表現力を十分に発揮させ、本校生徒の強みを生かし、成果をあげた。 ・②ここ数年継続実施している創作活動として、『地域文化作品展示』を行い、情操を養う活動となった。特に今年度は、学校運営協議会とも連携し、2回開催することができた。常設コーナーや定期的に開催できるように進めていきたい。 ・③特別支援級生徒を対象に、『生け花教室』を開催し、感性豊かな作品の制作活動が行えた。 ・朝読書活動では知的活動を増進し、思考力・判断力・表現力等を育成する観点からも、読書機会の定着など一層の推進が図れた。⇒学校司書の活用 ・朝タイピング活動では、毎週水曜日の朝、GIGAスクール端末を使って自主的にタイピング練習をおこない、ICT機器への慣れや活用能力を高める機会となっている。また、授業での積極的な活用もできるようになってきた。	・本校の特色「創作活動」を生かした「主体的・対話的で深い学び」を推進する。 ・学ぶ意欲の向上に向け、地域の教育力を活用する。 ・昼休みの学習会の周知を広め、1年生対象から学年を拡大していきたい。また、利用者の拡大を進める。さらに、地域の人的資源の確保と活用を生かし、多岐にわたる生徒の要望に応えられる基盤をつくる。 ・次年度より定期試験を廃止し、単元テストによる評価材料の変更に伴い、職員の評価方法の熟知と生徒・保護者への説明を丁寧に進めていくことで、学習活動への取組を高めていく。 ・授業の学習活動にとどまらず、特別活動や学校行事などでも積極的なICT機器の活用を進めていく。
《キャリア教育の充実》	1・3	・生き方（職業）講話（1年） ・職場体験学習（2年）	・1学年では、『生き方（職業）講話』を機に、職業への理解やキャリア教育への意識を持つきっかけとなった。 ・2学年では、『職場体験学習』の実施にあたり、1年次に行った『職業講話』を発展させた形で、キャリア教育での職業に対する関心を高めて職業について知り、将来の社会的な自立に向けての自己の進路設計について考えることができた。 ・この『生き方（職業）講話』、『職場体験学習』は学校運営協議会とも連携し、地域協働活動として地域の力を活用することができた。 ・生徒自らに生き方を考えさせ、将来を展望した目的意識をもって学校生活を送らせる契機となった。 ・一人ひとりの個性・能力・適性に応じた生き方選択ができる力を育む意識づけとなった。	地域との連携・協働による取組を生かした次の項目を充実させる。 ・人間関係を広げつなげる生活体験の充実 ・他者と関わる場面の充実 ・地域社会と共に取り組む活動の充実

《道徳教育の充実》	1・2・3	体験の重視 ・地域社会と共に取組む体験活動 ①地域防災活動 ②環境整備活動 ③地域ボランティア活動 ・『特別の教科 道徳』の指導の工夫 ・『考え、議論する』活動や問題解決的な学習など多様な方法を取り入れた指導の工夫	・『地域社会と共に取組む体験活動(地域ボランティア活動)』を実施することができるようになった。 ・書物による机上学習に留まってしまったが、読み物から学び、考え、議論する学習活動を進めたことにより、道徳的価値に関わる意識を高めることができた。 ・道徳教育の要である『特別の教科 道徳』の指導をより効果的に行えるよう、学校と家庭と地域社会が共に取組む体制や小中連携による実践活動の充実などの体験活動は推進することができなかった。 ・指導のねらいに即して問題解決的な学習や体験的な学習を適切に取り入れるなど指導方法の工夫を年間計画に入れ意識付けを図った。 ⇒特別活動等における多様な実践活動や体験活動も『特別の教科 道徳』に生かした。	人間関係を築く力・社会参画意欲や態度の育成を重点に、体験的な学習を適切に取り入れた指導方法を工夫する。 ・学習活動の推進と、コミュニティスクールを基盤とした地域連携・学習活動の充実。 ・『環境整備活動』、『地域ボランティア活動』を推進していく。
《心をつなぐあいさつ》	2・3	あいさつ運動 全校生徒によるあいさつ短歌作成 あいさつ横断幕掲揚 生徒会交流会	・あいさつ運動が定着し、あいさつの大切さ、人として基礎を鍛える力を磨くことの意義が定着しつつある。しかし、生徒の活動として実施することが生徒の時間的な負担が大きくなり、あいさつ運動の運営にあり方を見直す必要に迫られている。当面は今後の更なる意識向上を期待したい。 ・日常生活等での基盤となる道徳性や感性を培う指導の充実を明確にした。 ・生きる上で必要な自己有用感を体験的に習得する活動を重視することで、人としての基礎を鍛える契機を得た。 ・基本的な生活習慣や善悪の判断、決まりを守る等、日常生活や学習の基盤となる道徳性や感性を培う意識が芽生えた。 ・生徒会主催で昼休みに全校生徒がレクリエーションで交流する機会をつくり、全校生徒がつながる活動を推進した。	・定着してきた『あいさつ運動』を、生徒の負担がなく実施できるよう、実施方法の見直しを進める。 ・生徒主体の生徒会交流会を定着させ、生徒自身の企画力を高めていく。
《一人ひとりを大切にする教育の実践》	2・3	インクルーシブの視点を取り入れた授業実践 教室環境づくり 居場所づくり	・特別支援学級担当主任の中堅教諭研修の取組により、全職員への研修報告や実践を進めることで職員の授業におけるインクルーシブの視点で授業を実践する職員が増え、一人ひとりに対する指導を丁寧に行えるようになった。しかし、一人ひとりの特性が多岐にわたり、少ない職員で多くの生徒に指導を進めるには負担が多く、時間外での指導を要するようになり、時間的確保が必要になってきた。 ・学級経営の一部として、教室環境の改善(フロントゼロ・生活の流れの明示)を進めることで、生徒が先を見通して落ち着いた生活を進められるようになった。	・校内支援委員会や生徒支援会議での生徒情報の共有を進め、適宜迅速な情報の伝達や共有を進めていく。 ・職員による教科の枠を超えた授業参観を進め、指導の在り方を職員間で研修を進めていく。 ・教室環境がスタンダードになるよう、学年を問わず、教室環境づくりを進めていく。 ・どの生徒にとっても安心・安全な教室環境づくりを進めるため、職員間で意見交換を進める。
《小中連携の推進》	2・3	小中交流会(情報交換) 小中合同研修会	・コロナ禍が過ぎ、小中共に顔の見える関係づくりを進め、授業参観・懇談会等、有意義な意見交換をする場をつくることができた。 ・小中間で求める課題に差異があり、共通の課題を共有することができなかった。	・『学習する場所』の認識を第1に、【学習指導と評価の在り方】を共通のテーマに研修・交流を進める。 ・職員間に加え、児童・生徒がともに交流できる場づくりを進めていく。

今年度の学校関係者評価委員会からの意見

- ・学校教育活動における学習活動、生徒活動、学校行事、小中連携、地域連携活動等が、日常的に活動できるようになってきた。通常の学校生活のスタイルで教育活動が進められてきたことは評価できる。
- ・学校行事をはじめ、授業の様子などでも生き生きとした表情で活動している姿を見ることができ、次年度に向けて更に期待が高まった。
- ・学校運営協議会において、本地区の地域コミュニティ力を基盤に小規模校の魅力化推進を図る教育活動の展開を目標に据え、学校の抱える課題を地域と共に考え、協議を重ねる過程の中で、将来への糸口となる理解・支援体制を継続的に育んでいくことが確認された。また、協議会の中に生徒も参加し、生徒の意見(どのような森中をつくっていきたいか)を取り入れた学校づくりのきっかけをつくることができたことは、新たな森中づくりとなっていくことが期待できる。
- ・「地域の教育力の活用・連携の事業」として、保護者来校機会と時期を合わせた『地域作品展示』の開催、特別支援学級在籍生徒を対象とした『生け花教室』の開催、専門家による『地学教室』を開催することができた。本地区特有の人材を生かした活動が展開できた。次年度以降も、小規模校の特色と地域連携を生かした教育活動が展開できることを期待する。
- ・今年度設け始めたような熟議の場面を継続的に設け、「開かれた学校」から「地域とともにある学校」へ推進することを期待する。

今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針

○学校規模の縮小、学級数・教職員数の減少の状況から、次年度についても、本年度と同様の計画を継続し、学校規模相応の教育活動と地域連携を進めていくことを確認した。また、地域の教育力を生かす連携を無理のない範囲で進めていけるよう、工夫・検討していく。

1 社会性を育む手立て

- ・固定化される人間関係を広げつなげる生活体験
- ・他者と関わる場面の充実
 - 参加型から運営型への意識転換
 - 支援される意識から支援する意識への転換
- ・感謝の心の育成

2 多様な体験活動を活かす工夫

地域社会と共に取り組む活動の充実

3 「家庭・学校・地域」三者の役割連携

4 社会に開かれた教育課程の推進

- ・9年間の学びを推進する学校づくり【こどもの学びを繋げる小中連携】
- ・地域の人的資源を生かした学校づくり【学校の応援団を増やす】